

1 開催日時

平成26年1月10日（金）午後2時から

2 開催場所

会議棟第1会議室

3 出席者

委員：鈴木委員長 土田委員 武石委員 真如教育長

事務局：阿部学校教育部長 石井学校教育部参事 小俣社会教育部長

小坂橋統括指導主事 梶川給食課長 岩本学校教育課長

福嶋庶務係長

欠席委員：岩田委員

4 協議項目

(1) 学校給食における福島県産米の使用について

(2) 東大和市教育委員会の教育目標及び平成26年度東大和市教育委員会の基本方針について

5 会議の要旨

(1) 学校給食における福島県産米の使用について

①主な説明

・給食食材については、平成23年度途中まで学校給食に福島県山都町産米（やまと妹）を使用していたが、東日本大震災後、放射性物質の関係から現在は調達をしていない。

友好都市である喜多方市産米を安全性が確認できたこともあり今後、学校給食センター運営委員会でPTA代表者等の意見を聞いた上で、福島県産米の使用について検討したい。

・福島県産米を使用することの課題の一つとして考えられるのは、保護者の不安感が懸念されることである。また課題の二つ目としては、現在学校給食で使用している秋田県産米より価格的に高い傾向にあるため、給食費会計に影響が生じることである。

②主な内容

・やまと妹とは、ブランド銘のことである。

・支援することは大いに良いことだと思うが、どのくらいのペースで使用する考えなのか。

・月1回のペースとしたいがこれは停止する前のペースと同じである。まずは、スタートラインに戻ることが先決かと考える。その後量を増やしていくことも考えたい。安全確認については、市としても直接検査を実施している。

・食の安全には、十分な注意を払ってほしい。職員にも今まで以上に安全管

理について注意喚起を促してほしい。

- ・現在は、年間を通して秋田県産米を使用しているがその理由は収穫量が多く、安定しているからである。

(2) 東大和市教育委員会の教育目標及び平成26年度東大和市教育委員会の基本方針について

①主な説明

- ・平成26年度改訂用（1次案）の東大和市教育委員会の教育目標についての変更部分は特になし。
- ・平成26年度東大和市教育委員会の基本方針では、教育目標を達成するために、今年度策定した東大和市学校教育振興基本計画を活用する旨を追記した。
- ・平成26年度東大和市教育委員会主要施策についても、今年度策定した東大和市学校教育振興基本計画を追記した。
- ・基本方針1の(1)人権教育の育成について、第九小学校が人権尊重教育推進校の指定を受けていることからその旨を追記した。(3)いじめ・不登校の対策については、いじめ防止対策推進法が施行されたこともあり追記した。
- ・基本方針2については、順序を入れ替えて、当市で最も力を入れている基礎学力の向上についてを(1)として、国や都の学力調査の結果等活用し各学校が児童・生徒の実態に応じた学力向上策を具体的に立案し、実践していくことで学力向上が図られるよう支援する。児童・生徒が学年相応の学力を身に付けて進級・進学できる指導を徹底すると文言を明記し、取組みを充実させるために、「やまとっくん とっくん塾」や「東大和市家庭学習の手引き」の活用を記載する。
- ・(2)小中一貫教育の推進については、小学校から中学校への円滑な接続を図るため、小中一貫教育を推進する旨、中学校グループにおける取組みが行われるように記載する。
- ・(3)才能を伸ばすための多様な教育手段を記載する。ここでは、補助金を活用し、中学校アメリカンサマーキャンプを計画している。
- ・(5)授業改善推進プランの活用については、各学校のホームページ等で児童・生徒の学力向上のための授業改善策を広く公開する。保護者や市民の方々に広く示すことが大切であると考えます。
- ・(9)健康教育の充実について、「早寝・早起き・朝ご飯」運動を推進すること、また、虫歯被患率の減少と治癒率の向上が図られるよう支援することを記載する。
- ・基本方針4の(1)開かれた学校づくりの推進については、全校において学校経営方針や学校評価の結果を積極的に保護者・地域に報告し、教育の成果と課題及び学校の教育活動の周知を図り、連携を深める。結果のみならず地域と一緒に作り上げ連携を深めることが大切なことである。
- ・(2)学校の組織的運営の確立については、学力向上及び小中一貫教育を見通した学校経営方針を職員と共有することを記載する。
- ・(10)アレルギー疾患への対応については、新たに「東大和市立小・中学校

アレルギー疾患への対応マニュアル」の活用を図る旨を記載する。

②主な意見

- ・授業改善推進プランは、どんなプランをたてどのように進めていくのか、また、成果や課題を加えていくべきであり、成果が出るように考えてほしい。
- ・基礎学力の向上のなかで、学校・家庭・地域との協力とあるが、漠然としていて何を協力してもらおうのかわかりづらい。学校が家庭地域に何を求めているのかがわかるようにしてほしい。
- ・虫歯の治癒率の向上には、子どもたち、養護教諭、学校歯科医等や保護者との連携を図る。また、学校保健部会などでも研究、検討しその成果を保護者等に向けてPR活動を展開する。
- ・女子マラソン（日本発祥の地）については、ぜひどこかに活用できないのか。
- ・音楽のまち東大和についても、盛り上がってきているので、社会教育等の行事でもより活用できるように配慮してほしい。
- ・教員研修の充実については、どういった研修を職員は希望しているのか、悩みやニーズを事前につかんでそれにあった研修を実施すればより良い研修になると思う。
- ・教育ボランティアについては、できるだけ多様な方々に参加してほしいが、特に教育関係者（元教員）などが市内にどのくらいの方がいるのか等、人材バンク的なものを資料として持っているとは効果的ではないかと思う。
- ・スポーツの振興でも、子どもたち（若年層）を取り込むことができるように社会教育の行事等での参加協力を考えてみてはどうか。
- ・やまとらしさを取り入れてみるのが大切である。
- ・学校教育振興基本計画の策定の初年度でもあるので、よく確認して取りこぼしのないように再度見直す。